

◆2024年1月の新刊

日本キリスト教団出版局

日本カトリック教会の音楽

明治期から昭和初期まで・宣教師らの軌跡とともに

ときつ
時津ハインツ 著

1947年生まれ。イエズス会士。フランクフルト大学卒業、同大学院修了。ボン大学において博士号を修得（音楽学）。現在、エリザベト音楽大学名誉教授。

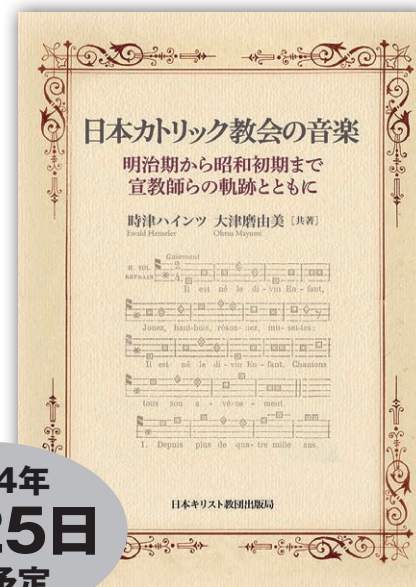
おおつまゆみ
大津磨由美 著

エリザベト音楽大学卒業（首席）、同大学院修士課程宗教音楽学修了。宗教音楽、特に日本のカトリック教会の音楽研究に携わる。現在、キリスト教礼拝音楽学会会員。

明治期以来の日本語聖歌集、日本人による聖歌、音楽を用いた宣教、グレゴリオ聖歌研究と受容、ハルモニウム（リードオルガン）……開国から戦中・戦後に至るまでの日本におけるカトリック音楽に関する論考20編を、豊富な図版、資料とともに収録する貴重な一冊。

A5判・上製・408頁・定価6,820円（本体6,200円＋税）

ISBN978-4-8184-1151-7 C1073



2024年
1月25日
刊行予定

目次

第1章 聖歌集

- ・聖歌集『きりしたんのうたひ』（1878）
- ・明治期の「手書き歌詞聖歌集」について
——《ド・ロさまの歌》との関連
- ・『カトリック聖歌集』（1966）の編纂と日本人の作曲による聖歌 他

第2章 聖歌

- ・聖歌の世界——明治期から昭和初期までの聖歌
- ・《無原罪の聖マリアの賛歌》
——明治期に歌われたフランスの聖歌
- ・山本直忠の聖楽劇《受難》 他

第3章 典礼

- ・「モトゥ・プロブリオ」（1903）と日本の典礼運動
——『フォス・キリスト』誌に見られる聖歌を中心に
- ・『フォス・キリスト』誌に見られる朝鮮カトリック教会のリタニエ 他

第4章 グレゴリオ聖歌

- ・「グレゴリアン音楽学会」の設立過程と終戦までの活動状況
- ・「アヌイ師と宮城道雄氏の対談」
——グレゴリオ聖歌と「自由リズム」

第5章 ハルモニウム

- ・ハルモニウムによる聖歌伴奏譜——『日本聖詠』（1907）から『カトリック聖歌伴奏』（1966）まで 他

第6章 資料紹介

- ①山本直忠作曲
《民謡調弥撒曲》
- ②「ミサ聖祭解説」
- ③「手書き歌詞聖歌集」
の断片（1枚）
- ④《アマノコウグウ・ウタヒ・》
- ⑤三木露風とCh.タルシス
a) “Nobara”
b) 『修道院の花』